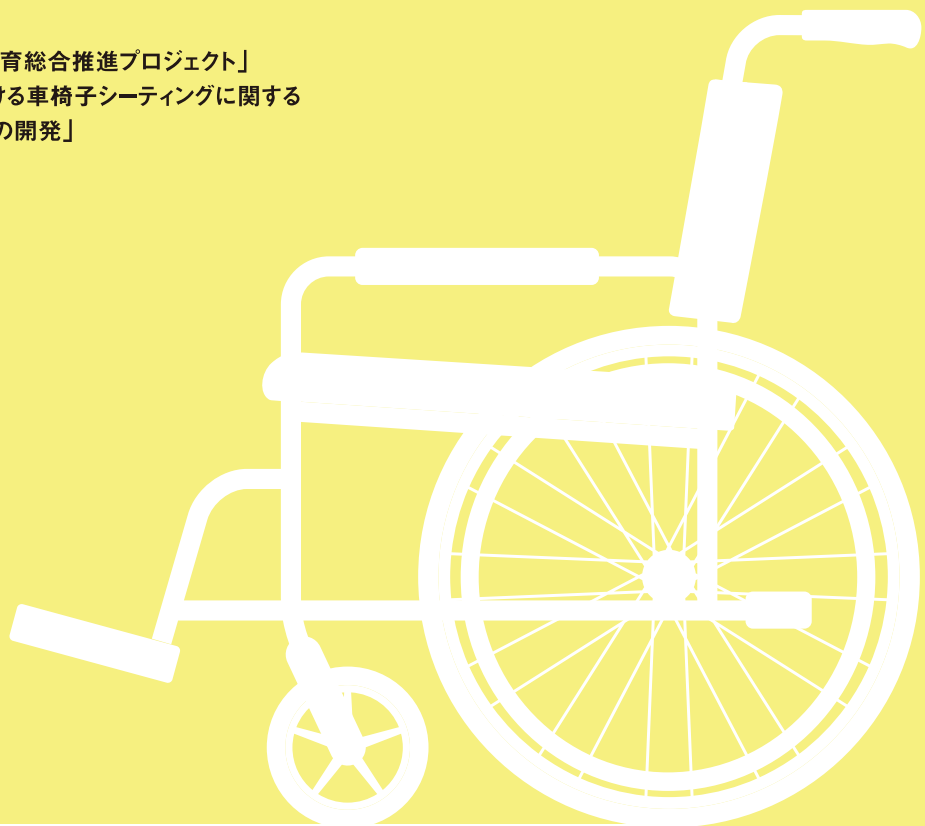


令和3年度文部科学省委託事業「専修学校リカレント教育総合推進プロジェクト」
分野横断型リカレント教育プログラムの開発「介護における車椅子シーティングに関する
技術習得のための分野横断型リカレント教育プログラムの開発」



車椅子シーティング&メンテナンス技術入門

車椅子シーティング

基礎・応用

Introduction to Wheelchair Seating & Maintenance Technology

Wheelchair Seating

[BASICS・APPLICATIONS]

令和3年度文部科学省委託事業「専修学校リカレント教育総合推進プロジェクト」
分野横断型リカレント教育プログラムの開発「介護における車椅子シーティングに関する
技術習得のための分野横断型リカレント教育プログラムの開発」



車椅子シーティング&メンテナンス技術入門

車椅子シーティング

基礎・応用

Introduction to Wheelchair Seating & Maintenance Technology

Wheelchair Seating

[BASICS・APPLICATIONS]

姫路ハーベスト医療福祉専門学校

はじめに

今後、世界の総人口における 65 歳以上の高齢者の割合は 2060 年までに 17.6%になると見込まれています。これは、我が国だけの問題ではなく、世界的な課題となっています。

高齢化の進展から、これから人生 100 年時代を見据えると、他人に依存しなければ生きられない高齢者が急増してきます。高齢になると次第に今まで普通にできていたことができなくなってきました。そのため、今後、高齢者の介護を社会全体で支え合う介護サービスの充実のほか、高齢者が持っている能力や自分のできることが最大限発揮でき、健康的に長く生活を続けることを実現させるための自立支援が必要です。

この様な高齢化社会の中で、今後、車椅子の利用者数が増加していくことが、厚生労働省の調査結果からも分かります。厚生労働省介護給付費等実態統計の調査の中から居宅サービスによる福祉用具貸与種目別にみると、車椅子は、平成 27 年度では 8,053 千件、平成 28 年度 8,259 千件（前年度比 206 千件増）、平成 29 年度 8,467 千件（前年度比 208 千件増）、平成 30 年度 8,674 千件（前年度比 207 千件増）、平成 31 年度 8,868 千件（前年度比 194 千件増）と毎年増加傾向となっています。

欧米では発達障害児・者や障害者、高齢者が椅子・車椅子、または座位保持装置を適切に活用し自立生活の支援と促進、二次障害の予防、介護者の負担を軽減する手段としてシーティング技術が一般化しています。

しかしながら、我が国では、介護福祉士やヘルパーをはじめ、医療関係職種もシーティング技術の知識と実践が遅れているため「寝たきり大国」となっている状況です。

身体に接する用具の基本である車椅子や電動車椅子のサポートができることで、重度障害のある人が屋外に出て生活を楽しめるようになるためにも、介護支援技術が広がることが重要です。車椅子の不具合や、利用する際に姿勢が悪いなど正しい車椅子シーティングができていないと廃用性症候群（関節拘縮、褥瘡（床ずれ）、皮膚萎縮（短縮）、括約筋障害（便秘・尿便失禁）、廃用性骨萎縮（骨粗鬆症）、起立性低血圧、自律神経不安定など）になる恐れがあります。

本事業の 3 年間の取組の集大成として、車椅子利用者が日常生活をより快適に過ごし、尚且つ、自立支援をも可能とする車椅子シーティングとメンテナンス技術を社会福祉サービスや介護サービス従事者をはじめ、はじめて介護に携わる方や興味がある方といったどなたでも学ぶことができる基礎習得の教育プログラム・カリキュラムの成果をまとめることができました。本教育プログラム・カリキュラムを一人でも多くの方々が活用していただけると幸いです。

最後に、本事業に多大なるご協力をいただいた関係者の方々には深く感謝するとともに、この成果が関係者の方々の一助となれば幸いです。

令和 4 年 2 月

学校法人摺河学園 姫路ハーベスト医療福祉専門学校

もくじ 目次 CONTENTS

【基礎】

シーティング、座る	4
不良座位とは	6
姿勢の崩れについて	8
座面やバックサポートが身体に与える影響	10
長時間座ることの弊害	12
二次障害について	12
車椅子の役割り	19
車椅子ユーザーを取り巻く環境	21
目的に合わせた車椅子選び	24
車椅子に求められる機能	29
二次障害の発生原因	30
車椅子を使用する意義	31
快適な座位のためのポイント概略	37
車椅子の身体への適合	38
車椅子クッションの大切さ	39
車椅子クッションの求められる役割り	39
車椅子クッションの素材の特徴	40
座位における時間の要素	42

おうよう
【応用】

くるまいす 車椅子シーティングの目的	もくてき	48
くるまいす 車椅子のガイドラインについて		51
くるまいす 車椅子に求められる機能	もと きのう	56
かいてき 快適な座位のポイント	ざ い	57
ふく し よう ぐ せんてい 福祉用具選定のポイント		59

科目コード:

分野	リカレント教育推進	シラバス(概要)
系	分野横断型	今後、世界の総人口における65歳以上の高齢者の割合は2060年までに17.6%になると見込まれている。これは、我が国だけの問題ではなく、世界的な課題である。 車椅子利用者が毎年増加している中、車椅子の利用者の中には正しい姿勢で座れない、つまり正しい車椅子シーティングができていないと廃用性症候群(関節拘縮、褥瘡(床ずれ)、皮膚萎縮(短縮)、括約筋障害(便秘・尿便失禁)、廃用性骨萎縮(骨粗鬆症)、起立性低血圧、自律神経不安定など)になるおそれもある。このような廃用症候群の予防やケアができることは、車椅子利用者が日常生活をするうえで自立支援を促すために、必要な知識・技術であるが、現状はそれらを持ちあわせている介護者は多くない状況である。 シーティング技術は、発達障害児・者や障害者、高齢者が椅子・車椅子、又は座位保持装置を適切に活用し活動と参加への支援、発達の促進と二次障害の予防、介護者の負担を軽減することである。 本講座では、身体機能や構造を理解し、車椅子シーティング技術と福祉用具の関係、手動・電動車椅子の構造や機能とその特徴を理解することでメンテナンス(修理)技術を持ちあわせ、自立支援(ADL)ができる知識を有することで現在の社会背景に適合することを目指す。
年度	令和3年度	
対象	専門学校生・社会人	
前提職種		
教科名	車椅子シーティング&メンテナンス技術入門	
科目名	車椅子シーティング 基礎	
単位		
履修時間	4. 5h	
回数	1	
必修・選択		
省庁分類	文部科学省	評価方法
授業形態	講義・実習	
作成者		
教科書	オリジナルテキスト	1～2コマ目の確認テスト70点以上、3コマ目の体験状況を講師が判断し、合格とする。

90分/コマ	コマのテーマ	項目	内容	教材・教具
1	不良座位の理解	1_1 シラバスとの関係	座る姿勢が身体に与える影響を理解することで、車椅子シーティングへの導入を行う。	オリジナルテキスト モジュール形・標準形 車椅子クッション 工具セット 確認テスト
		1_2 コマ主題	座位、不良座位とはどういうものかを体験により理解する。	
		1_3 コマ主題細目	①座ることで身体に起こる現象 ②不良座位とは ③座面から与えられる影響 ④バックサポートの役割 ⑤座位による二次障害について ⑥確認テスト【解答10分・解説10分(計20分程度)】	
		1_4 コマ主題細目深度	座位・不良座位とはどういうものなのか、アプローチをすることでどのような変化があるのかを理解する	
		1_5 次コマとの関係	車椅子シーティングへ向かう前提となる不良座位を理解し、対策の必要度を理解する。	
2	車椅子選定のための基礎知識Ⅰ	2_1 シラバスとの関係	車椅子シーティングを行うための環境としての車椅子の基礎知識を学ぶ。	オリジナルテキスト モジュール形・標準形 車椅子クッション 工具セット 確認テスト
		2_2 コマ主題	車椅子選定のための種類・機能・ユーザーとの適合を理解する。	
		2_3 コマ主題細目	①車椅子シーティングの目的、車椅子サイズや種類の必要性 ②車椅子選定の基準 ③車椅子に求められるもの ④車椅子上での二次障害と対策 ⑤確認テスト【解答10分・解説10分(計20分程度)】	
		2_4 コマ主題細目深度	車椅子は個人に合わせて選定・調整など適合が必要なものであることを理解する。	
		2_5 次コマとの関係	車椅子に関わる基礎知識を持ち、実際の適合への下準備を行う。	
3	車椅子シーティングの基礎知識Ⅱ	3_1 シラバスとの関係	車椅子シーティング実習に向けた基礎知識を学ぶ。	オリジナルテキスト モジュール形・標準形 車椅子クッション 工具セット
		3_2 コマ主題	車椅子クッションの種類と使い分け、シーティングの基礎ポイントの理解。	
		3_3 コマ主題細目	①車椅子シーティングのポイント ②車椅子クッションの必要性、種類と使い分け ③車椅子クッション体験	
		3_4 コマ主題細目深度	車椅子クッションの必要性を理解する。	
		3_5 次コマとの関係	車椅子シーティングのベースとなる座面設定を理解する。	

科目コード:

分野	リカレント教育推進	シラバス(概要)
系	分野横断型	今後、世界の総人口における65歳以上の高齢者の割合は2060年までに17.6%になると見込まれている。これは、我が国だけの問題ではなく、世界的な課題である。 車椅子利用者が毎年増加している中、車椅子の利用者の中には正しい姿勢で座れない、つまり正しい車椅子シーティングができていない者もいる。車椅子の不具合や利用する際に姿勢が悪いなど正しい車椅子シーティングができていないと廃用性症候群(関節拘縮、褥瘡(床ずれ)、皮膚萎縮(短縮)、括約筋障害(便秘・尿便失禁)、廃用性骨萎縮(骨粗鬆症)、起立性低血圧、自律神経不安定など)になるおそれもある。このような廃用症候群の予防やケアができることは、車椅子利用者が日常生活をするうえで自立支援を促すために、必要な知識・技術であるが、現状はそれらを持ちあわせている介護者は多くない状況である。 シーティング技術は、発達障害児・者や障害者、高齢者が椅子・車椅子、又は座位保持装置を適切に活用し活動と参加への支援、発達の促進と二次障害の予防、介護者の負担を軽減することである。 本講座では、身体機能や構造を理解し、車椅子シーティング技術と福祉用具の関係、手動・電動車椅子の構造や機能とその特徴を理解することでメンテナンス(修理)技術を持ちあわせ、自立支援(ADL)ができる知識を有することで現在の社会背景に適合することを目指す。
年度	令和3年度	
対象	専門高校生・社会人	
前提職種		
教科名	車椅子シーティング & メンテナンス技術入門	
科目名	車椅子シーティング 応用	
単位		
履修時間	3h	
回数	1	
必修・選択		
省庁分類	文部科学省	評価方法
授業形態	講義・実習	
作成者		
教科書	オリジナルテキスト	1コマ目の確認テスト70点以上、グループワーク体験状況を講師が判断し、合格とする。

90分/コマ	コマのテーマ	項目	内容	教材・教具
1	車椅子シーティングの基礎知識Ⅲ	1_1 シラバスとの関係	車椅子シーティングにポイントを理解し、土台を作る。	オリジナルテキスト モジュール形・標準形車椅子 クッション 工具セット 確認テスト
		1_2 コマ主題	車椅子シーティングの基礎知識の理解	
		1_3 コマ主題細目	①車椅子シーティングの目的 ②車椅子の基礎知識の整理 ③車椅子シーティングの基礎知識 ④確認テスト【解答10分・解説10分(計20分程度)】	
		1_4 コマ主題細目深度	車椅子シーティングの必要性と基礎知識の理解	
		1_5 次コマとの関係	ベースとなる知識を理解する。	
2	車椅子シーティング実習	2_1 シラバスとの関係	車椅子シーティングの座位について体験する。	オリジナルテキスト モジュール形・標準形車椅子 クッション 工具セット
		2_2 コマ主題	車椅子座位に対する適合	
		2_3 コマ主題細目	＜グループワーク＞ ①シートクッション選定 ②アームサポート高さ調整 ③フットサポート高さ調整 ④背張り調整(背角込み)	
		2_4 コマ主題細目深度	適合調整により自身がユーザーに提供できる座位の変化を知る。	

車椅子シーティング

Wheelchair seating [BASICS]

基 礎

講師名：

今回の授業：車椅子シーティング 基礎

●シラバス

今後、世界の総人口における65歳以上の高齢者の割合は2060年までに17.6%になると見込まれている。これは、我が国だけの問題ではなく、世界的な課題である。

車椅子利用者が毎年増加している中、車椅子の利用者の中には正しい姿勢で座れない、つまり正しい車椅子シーティングができていない者もいる。車椅子の不具合や利用する際に姿勢が悪いなど正しい車椅子シーティングができていないと廃用性症候群（関節拘縮、褥瘡（床ずれ）、皮膚萎縮（短縮）、括約筋障害（便秘・尿便失禁）、廃用性骨萎縮（骨粗鬆症）、起立性低血圧、自律神経不安定など）になるおそれもある。このような廃用性症候群の予防やケアができることは、車椅子利用者が日常生活をするうえで自立支援を促すために、必要な知識・技術であるが、現状はそれらを持ちあわせている介護者は多くない状況である。

シーティング技術は、発達障害児・者や障害者、高齢者が椅子・車椅子、又は座位保持装置を適切に活用し活動と参加への支援、発達の促進と二次障害の予防、介護者の負担を軽減することである。

本講座では、身体機能や構造を理解し、車椅子シーティング技術と福祉用具の関係、手動・電動車椅子の構造や機能とその特徴を理解することでメンテナンス（修理）技術を持ちあわせ、自立支援（ADL）ができる知識を有することで現在の社会背景に適合することを目指す。

●今日の授業

●キーポイント

- | | |
|------------------------|--------------------------|
| □1 シーティング、座るとは | 生活を豊かにするための技術で、体験することが大切 |
| □2 不良座位とは | うけずに座り続けることの問題 |
| □3 姿勢の崩れについて | 疲れが引き起こす座位姿勢 |
| □4 座面やバックサポートが身体に与える影響 | 介助者の工夫が必要 |
| □5 長時間座ることの弊害 | 痛みや不快感は動かないことから起こる |
| □6 二次障害について | 快適な座位を提供することで防いでいくことが重要 |

●参照資料

- 1 P.4～5
 □2 P.6～11
 □3 P.8～9
 □4 P.10～11
 □5 P.12
 □6 P.12

●授業コメント

車椅子シーティングは、車椅子ユーザーの生活を豊かにするためのもの。

車椅子シーティングにおける「座る」という動作は誰もが体験しているもので、自分自身の体験から得るものは多い。

長時間座り続けることは、身体にとって負担が多く、疲れや不快感から姿勢の崩れが起こる。また、じっと座り続けることにより、褥瘡・筋緊張・拘縮・変形といった二次障害が発生する。

車椅子ユーザーに快適に座れる環境を提供するために、多くのことを体験し、車椅子への工夫を行っていく必要がある。

●資格関連度



令和3年度文部科学省委託事業「専修学校リカレント教育総合推進プロジェクト」
分野横断型リカレント教育プログラムの開発
介護における車椅子シーティングに関する技術習得のための
分野横断型リカレント教育プログラムの開発

車椅子シーティング&メンテナンス技術入門

車椅子シーティング 基礎

車椅子シーティング 基礎

□シーティングとは・・・

【日本シーティングコンサルタント協会】

シーティングとは、椅子・車椅子を利用して生活する人を対象に、座位に関する評価と対応(機器の選定、調整、マネジメントなどを含む)を行うことです。シーティングの目的は、対象者等と共有した目標を達成できる適切な座位姿勢を実現することにより、二次的障害の予防、活動と参加の促進、心身機能・構造の改善を促すことです。

車椅子シーティングの簡単なイメージは・・・

車椅子利用者が、車椅子に「座って」豊かな生活を送るためのお手伝い

車椅子シーティングは、車椅子の選定・調整など利用者の身体や生活に合わせることで、車椅子利用者が豊かな生活を送るためにお手伝いをすることです。

そのために、車椅子の種類や機能を知ること、車椅子が身体や生活に与える影響などを考えることが必要になります。



車椅子シーティング 基礎

では、「座る」ということについて考えてみましょう。



「座る」とは

【広辞苑】

膝を折り曲げて、席に落ち着く。また、腰かける。

【大辞林】

膝を折り曲げたり、腰を掛けたりして席につく。

考えると難しそう・・・

でも、すでに多くのことを体験により学習済み！！

車椅子シーティングでは、車椅子に座ることが大切な要素になりますので、まずは座るということを考えてみます。辞書の意味から考えると難しいことのようですが、「座る」ことについては、今までの生活の中で体験してきており、その体験を車椅子シーティングに活かすことができます。

車椅子シーティング 基礎



これは良い姿勢？ それとも悪い姿勢？

写真やイラストの座っている姿勢は「良い姿勢」でしょうか？それとも「悪い姿勢」でしょうか。休憩には良いが仕事はしにくい、考えるときは良いがリラックスは出来ない、とそれぞれに特性があり、良い・悪いは決めにくいものです。



車椅子シーティング 基礎

座り方は人それぞれ。

場所や場面、座っている理由や座ってやりたいことによって変わる。

なぜその座り方なのか、理由を深く考えていなかったとしても

その座り方が「勉強する」・「食事する」・「テレビを見る」などに適していることは

身体が知っている

座る姿勢は、場面・場所や何をするのかによって様々に変化しますが、なぜその姿勢で座っているかはあまり考えません。それでも、その状況に最適な姿勢で座っているという経験は、車椅子ユーザーの姿勢を考えるためにとても重要となります。自分自身で感じることの多くは、車椅子ユーザーと共有できる貴重な情報となります。

車椅子シーティング 基礎

座っているのは楽ですか？

「座^{すわ}る」ということを改^{あらた}めて体^{たい}験^{げん}してみましょう。今^{いま}の姿^し勢^{せい}のまま、じ^{うご}っと動^{すわ}かず座^{すわ}り続^{つづ}けてください。5分^{ぶん}・10分^{ぶん}座^{すわ}り続^{つづ}けるとどうでしょう
か。



車椅子シーティング 基礎

休憩にはなるが、長時間じっと座っているのは意外としんどい。
では、なぜ長時間座ってられるのか？



じっとしていることにより、疲れ・不快感・痛みなどが出るため
知らず知らずのうちに姿勢を変え続けている。

座っていると誰でも「動く・姿勢を変える」

長い時間座っていることはしんどいこと。
疲れてくると姿勢はくずれていく。

座ることは楽なイメージがありますが、ずっと同じ姿勢で座り続けることはしんどいことです。長時間の座位になると、身体のいろいろな場所に痛みや疲れが出るため、姿勢は崩れていきます。

身体が健康な人たちは姿勢が崩れても、戻すことができるため大きな問題になりませんが、車椅子ユーザーの中には自分で姿勢を戻すことができない人がいます。その場合は、姿勢の崩れが大きな問題になってきます。

車椅子シーティング 基礎

では、座るもの「椅子」や「車椅子」からの影響は？

座面と背もたれが姿勢に与える影響を体験してみましょう。

座るためには椅子などの座るものがひつようになります。この座るものは身体にどのような影響を与えるでしょうか。椅子や車椅子が身体に与える影響を実際に体験してみましょう。特に座面と背もたれ姿勢に与える影響を感じてください。



車椅子シーティング 基礎

□車椅子上の環境

・座面は・・・？

折りたたみの為にスリングシートを採用。

すべり易く、安定しない。

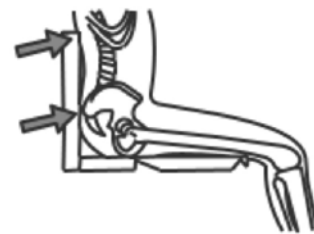
座骨への圧迫の集中。



・背もたれは・・・？

1枚シート張りだと体型に合わない。

背中からの圧迫、姿勢のくずれ。



車椅子の座面にはたわみがあり、座位のベースになるお尻の骨である骨盤は安定せず座りにくさがあります。また、背もたれは1枚のシートであるため、体型に合わず、もたれにくい形状になっています。

そのため、何も工夫せずに座ると、姿勢は崩れ、また疲れや痛みが出てしまいます。つまり、車椅子ユーザーに合わせる工夫がされない車椅子は、座りにくいものであるということです。

車椅子シーティング 基礎

悪い姿勢で座ること(不良座位姿勢)の問題

- 長時間動けない、姿勢を戻せないこと (座らせきり)
- 二次障害の発生

代表的な車椅子座位における二次障害

・褥瘡 ・筋緊張の亢進 ・変形 ・拘縮

長時間悪い姿勢(不良座位姿勢)で座り続けると、褥瘡などの二次障害が発生します。二次障害は、車椅子上で発生する大きな問題で、防いでいくためには不良座位姿勢にならないように車椅子をユーザーの身体に合わせることや、自分で動けない場合は介助の手を入れて身体を動かす必要があります。車椅子を使用することで二次障害が起こると、生活に支障が出たり、介護度が上がってしまったりと、車椅子ユーザーのQOL低下につながります。



車椅子シーティング 基礎

車椅子利用者が快適に座り、豊かな生活を送るために
皆さんの「座ってきた経験」を活かしましょう！

自分自身が多くを経験することから、座っている車椅子ユーザーの姿勢を見て、しんどくないのか・痛みはなさそうか・リラックスできているのかなどイメージをすることが大切です。

そのためには、車椅子に座ってみることや、あえて不良座位姿勢で長時間座ってみるなど、車椅子ユーザーに近い座位体験をすることが重要です。



車椅子シーティング 基礎

車椅子の大切さ

ここからは車椅子とはどういうものなのか、また機能・選定について基本的なポイントを整理していきます。

確認
テスト

以下の問いに○か×で答えよ

第(1/3回)

1

講師名：

車椅子シーティング 基礎

氏名：

問題1 シーティングについて、体験から得るものは多い。

解答1

問題2 どんな場面・場所でも座っている姿勢は変わらない。

解答2

問題3 座ることは休憩には良いが、じっと長く座ると疲れる。

解答3

問題4 座っていると、誰でも少しずつ姿勢を変えている。

解答4

問題5 疲れてくると姿勢は崩れていく。

解答5

問題6 どんな車椅子でも、車椅子を身体に合わせられるようにつくられている。

解答6

問題7 椅子や車椅子など、座るものが身体に与える影響はあまりない。

解答7

問題8 座ったとき、バックサポートは身体を支えるために重要な役割がある。

解答8

問題9 崩れた姿勢を戻せないことが問題だ。

解答9

問題10 車椅子に座った状態で発生する褥瘡は、車椅子座位の二次障害だ。

解答10

講師名：

車椅子シーティング 基礎

氏名：

解答1 ○

解説1 だいけん え おお
体験から得るものは多い。

解答2 ×

解説2 ばめん ばしょ などによって すわ しせい へんが
場面や場所などによって座る姿勢は変化する。

解答3 ○

解説3 いた ふ かいがん つか で うご ちょうじ かばわ むずか
痛みや不快感や疲れが出るため、動かずにじっと長時間座ることが難しい。

解答4 ○

解説4 いた ふ かいがん つか のが すこ し しせい か
痛みや不快感や疲れから逃れるため、少しずつ姿勢を変えている。

解答5 ○

解説5 つか しせい くず
疲れると姿勢は崩れる。

解答6 ×

解説6 からだ あ きゆう くるまいす
身体に合わず機能がついていない車椅子もある。

解答7 ×

解説7 すわ からだ おお えいきょう う
座るものによって身体は大きな影響を受ける。

解答8 ○

解説8 さ い じゅうよう やくわ
バックサポートは座位に重要な役割りがある。

解答9 ○

解説9 くず しせい ちど で き に じしやうがい はっせい
崩れた姿勢を戻すことが出来ないと、二次障害が発生する。

解答10 ○

解説10 くるまいす さ い に じしやうがい だいひょう じよくそう
車椅子座位の二次障害の代表として褥瘡がある。

講師名：

今回の授業：車椅子シーティング 基礎

●シラバス

今後、世界の総人口における65歳以上の高齢者の割合は2060年までに17.6%になると見込まれている。これは、我が国だけの問題ではなく、世界的な課題である。

車椅子利用者が毎年増加している中、車椅子の利用者の中には正しい姿勢で座れない、つまり正しい車椅子シーティングができていない者もいる。車椅子の不具合や利用する際に姿勢が悪いなど正しい車椅子シーティングができていないと廃用性症候群（関節拘縮、褥瘡（床ずれ）、皮膚萎縮（短縮）、括約筋障害（便秘・尿便失禁）、廃用性骨萎縮（骨粗鬆症）、起立性低血圧、自律神経不安定など）になるおそれもある。このような廃用性症候群の予防やケアができることは、車椅子利用者が日常生活をするうえで自立支援を促すために、必要な知識・技術であるが、現状はそれらを持ちあわせている介護者は多くない状況である。

シーティング技術は、発達障害児・者や障害者、高齢者が椅子・車椅子、又は座位保持装置を適切に活用し活動と参加への支援、発達の促進と二次障害の予防、介護者の負担を軽減することである。

本講座では、身体機能や構造を理解し、車椅子シーティング技術と福祉用具の関係、手動・電動車椅子の構造や機能とその特徴を理解することでメンテナンス（修理）技術を持ち合わせ、自立支援（ADL）ができる知識を有することで現在の社会背景に適合することを目指す。

●今日の授業

●キーポイント

- | | |
|-------------------|--|
| □1 車椅子の役割り | 「座る」・「移動」の2つの役割を考える |
| □2 車椅子ユーザーを取り巻く環境 | 離床を進めることで車椅子座位の時間が延びている |
| □3 目的に合わせた車椅子選び | 車椅子ユーザーの身体状況と生活環境を知り、必要な機能に優先順位をつけることが重要 |
| □4 車椅子に求められる機能 | 座位・移乗・移動の3つの機能が必要 |
| □5 二次障害の発生原因 | 痛みや不快感からくる姿勢の崩れが原因となる |
| □6 車椅子を使用する意義 | 快適に座れて生活しやすいことが重要 |

●参照資料

- 1 P.19～20
- 2 P.21～23
- 3 P.24～27
- 4 P.29
- 5 P.30
- 6 P.31

●授業コメント

車椅子はユーザーの生活を豊かにし、ユーザーが望む生活を実現するために使用される。

役割りは座ることと移動することの2つがあり、離床を進める現在の状況においては、特に「座る」役割りが重要。

車椅子を選ぶには、ユーザーがどのような場所でどの程度の時間使用するのか、介助者は誰なのか、身体機能はどの程度あるのかといった、ユーザーの環境を知ることが重要。加えて、ユーザーの身体状況や生活環境から、車椅子にどのような機能が必要か、優先順位を決めて選ぶ必要がある。

車椅子がユーザーに合わない状態で使用し続けると、褥瘡などといった二次障害が発生するため、車椅子をユーザーに合わせる（フィッティング）はとても重要となる。

●資格関連度



車椅子シーティング 基礎

□ 車椅子とは？

利用することによって生活を楽しく、豊かにする為のもの。

望まれる生活を実現する為の手段のひとつ。

→ 車椅子シーティング



車椅子は、車椅子ユーザーの生活を楽しく豊かにするための大切な道具の1つです。また、車椅子シーティングは、この目的を達成するための技術となります。車椅子をよく知ることは、車椅子シーティング技術を高めるために大切な要素となります。

車椅子シーティング 基礎

□車椅子の目的

車椅子⇒ 移動の手段

車椅子⇒ 座るための役割

車椅子には、移動するという役割だけでなく、座るという大切な役割があります。この座るという役割は、車椅子ユーザーの QOL にとって重要なポイントとなります。



車椅子シーティング技術 基礎編

車椅子利用者を取り巻く状況

ADLの向上！

離床の推進

車椅子での座位時間延長

不適合や座らせきりによる《二次障害》

医療や介護の現場では、様々な理由から離床を推進していますが、その結果車椅子ユーザーの座位時間が延びる傾向にあります。そのため、車椅子とユーザーの身体の不適合や、長時間の座らせきりによる二次障害が問題になっています。

車椅子シーティング 基礎

考えないといけない大切なこと・・・

『車椅子』としての役割の重要性！！

このような状況の中、特に、車椅子の「座る」という役割りが重要になります。



車椅子シーティング 基礎

『車椅子』の役割を怠ると？

介護度のUP...



座ることによる苦痛、二次障害の発生



そうさせないためには？

座るという役割を怠ると、車椅子に座ることにより痛みや疲れ、最悪のケースでは二次障害という車椅子ユーザーの生活によってとても大きな問題が起こります。生活を豊かにするために車椅子を使用したことで、より悪い状況を引き起こしてしまうという結果は避けなければなりません。

車椅子シーティング 基礎

目的に合わせた車椅子選び①

ユーザーが生活のどの場面でどの程度の時間、
車椅子を利用するのか はっきり認識すること

例えば…

屋内？ 屋外？ 在宅？ 病院施設？ 介助者は？
何分？ 何時間？ 何日？ 何ヶ月？ 何年？

ユーザーがどの程度の残存機能があるのか
はっきり認識すること

例えば…

移乗方法は？ 駆動方法は？ 座位の安定は？

二次障害などの問題を起こさないために、車椅子を選定し、利用者の身体と生活に適合することが重要です。車椅子の選定には、ユーザーが車椅子を使用する環境、またユーザーの身体機能などを確認することが必要となります。



車椅子シーティング 基礎

目的に合わせた車椅子選び②

車椅子にも様々な種類があり、機能・金額も様々。
 どのような機能が必要か、優先順位をつけて選択すること
 例えば・・・

肘掛け調整？ 跳ね上げ？ 取り外し？ 足置き台調整？
 取り外し？ 座面角度調整？ 背角度調整？ 足上げ？



これら①②は車椅子選定にあたり、
 最低限考えなければいけないこと。

車椅子には様々な種類や機能があるため、どの種類の車椅子が良いのか、どの機能がユーザーにとって必要なのかを考えます。また、車椅子選定を行う際には、必要な機能などについて優先順位をつけることがポイントとなります。

車椅子シーティング 基礎

□例えば…

・この車椅子の特徴は？



車椅子の重量が軽い



『軽い』車椅子を必要とする生活の場面は？



介助者がユーザーを移動させて
自動車に積み込んだり…

車椅子を選択する際に、生活環境において、
このような点が重視されるのかどうか重要。

注意：介助者目線だけの選定にならないこと！

車椅子を選定する際には、機能に目が行きがちですが、その機能は何のため
にありユーザーの生活のどの部分で役立つのかが最も大切です。また、
車椅子を選定する場合、家族や訪問スタッフなど介護にかかわる方々で決
めることが多く、介助者側の使いやすさを主とした選定になりがちで
すので、ユーザーが最優先であることを忘れないでください。



車椅子シーティング 基礎

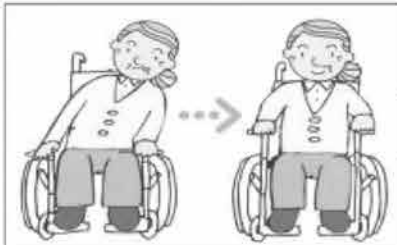
□例えば・・・

・アームサポート、フットサポートの取り外しができると？



移乗の場面で役立ちそう！

・アームサポート、フットサポートの高さ調整ができると？



ユーザーの座り心地が良くなりそう！

車椅子利用者の身体や生活に合わせた選定が重要！

車椅子選定には、生活動作の中で必ず必要になる乗り移り動作（移乗動作）についても考える必要があります。移乗が簡単で安全であることは、車椅子ユーザーが生活すること、介護の負担軽減に大きく役立ちます。

車椅子シーティング 基礎

良い車椅子とは？

- ・身体状況
- ・価格
- ・デザイン
- ・重さ
- ・サイズ
- ・タイプ(自走用、介助用など)
- ・使い勝手

・・・etc

車椅子選定は難しいように感じるかもしれませんが、日常生活の中で自分自身が使用しているものを選ぶ時と同じように考えてください。例えば眼鏡。度数を合わせて、デザインを選び、使いやすさや自分の考える価格帯のものを選ぶと思います。それと同じと考えてください。



車椅子シーティング 基礎

車椅子に求められる機能

・座位

座位での姿勢・座り心地・安定感

・移乗

車椅子への乗り降り

・移動

こぎやすさ・押しやすさ

車椅子に求められる大切な機能として、座位・移乗・移動の3つがあります。この3つの機能をベースにし、車椅子をユーザーの身体と生活に適合していきます。

車椅子シーティング 基礎

□身体に合わない車椅子を使い続けると・・・

二次障害の発生

【代表的な車椅子座位における二次障害】

・不快感
・痛み
・不安定感
・不適合



・褥瘡
・筋緊張
・変形
・拘縮

不適合な車椅子を利用し続けると二次障害が起こります。二次障害の代表に、褥瘡・筋緊張・変形・拘縮といったものがあります。この二次障害の発生を防ぐため、車椅子の選定から適合を行います。



車椅子シーティング 基礎

車椅子シーティングに関わることで・・・

- ・利用者の快適性、安楽性を確保
- ・介助者の負担軽減
- ・ADL・QOLの向上

自分の身体で体験したことを基に
少しでも出来るところから！！

車椅子は、ユーザーにとって快適に座ることができ生活がしやすいものでなければなりません。それを提供するためには、介護のプロの目が必ず必要となります。知識として勉強することもたいせつですが、自分の身体で体験することはもっと大切です。たくさんのことを体験し、体験を基に車椅子ユーザーとかかわってください。

講師名：

車椅子シーティング 基礎

氏名：

問題1 くるまいす りよう 車椅子は利用することで、せいかつ ゆた 生活を豊かにするためのものだ。

解答1

問題2 くるまいす やくわ 車椅子の役割りは「すわ 座る」という役割り1つだけだ。

解答2

問題3 りしやう すす 離床を進めることでざい じかん 座位時間は長くなる。

解答3

問題4 くるまいす すわ 車椅子の「座る」という役割りはとてもたいせつ 大切だ。

解答4

問題5 くるまいす せんてい 車椅子の選定において、どこでくるまいす つか 車椅子を使うかはあまりかんけい 関係ない。

解答5

問題6 くるまいす かいじょしや つか 車椅子は、介助者の使いやすさが最ももっと じゅうよう 重要だ。

解答6

問題7 くるまいす りようしや しん たい じようきよう しようかんきよう あ 車椅子は、利用者の身体状況や使用環境に合わせないといけない。

解答7

問題8 くるまいす きのう 車椅子の機能として、ざい いじよう いどう ひつよう 座位と移乗と移動が必要になる。

解答8

問題9 からだ あ 身体に合わない車椅子を使い続けると、くるまいす つか つづ 二次障害が発生する。

解答9

問題10 くるまいす かいてき すわ 車椅子は快適に座れさえすれば、他のことは何も考えなくて良い。

解答10

講師名：

車椅子シーティング 基礎

氏名：

解答1 ○

解説1 くるまいす 車椅子を利用することで、りようしや のぞ 利用者の望んだ生活を実現することが目的となる。もくてき

解答2 ×

解説2 くるまいす 車椅子の役割りは、すわ 座ると移動の2つ。いどう

解答3 ○

解説3 りしやう 離床することで、ざいじかん 座位時間は長くなる。なが

解答4 ○

解説4 すわ 座るといふ役割りはとても重要。じゆうよう 怠ると二次障害を発生する。おこた に じしやうがい はっせい

解答5 ×

解説5 くるまいす 車椅子をどこで使用するかは選定にとって重要な項目となる。しやう せんてい じゆうよう ちゆうもく

解答6 ×

解説6 くるまいす 車椅子は利用者のことを最優先に考える必要がある。り しようしや さいゆうせん かんが ひつよう

解答7 ○

解説7 り しようしや しん たい じゆう きやう しようかんきやう あ 利用者の身体状況や使用環境に合わせることが重要。じゆうよう

解答8 ○

解説8 ざい 座位と移乗と移動は車椅子に必要な機能。い じゆう い どう くるまいす ひつよう きんのう

解答9 ○

解説9 からだ あ 身体に合わない車椅子の使用は、二次障害発生の原因となる。くるまいす しやう に じしやうがはっせい げんいん

解答10 ×

解説10 かいてき すわ 快適に座ることは重要だが、じゆうよう 移乗や移動などその他の生活にも配慮が必要。い じゆう い どう た せいかつ ほういりょ ひつよう

講師名：

今回の授業：車椅子シーティング 基礎

●シラバス

今後、世界の総人口における65歳以上の高齢者の割合は2060年までに17.6%になると見込まれている。これは、我が国だけの問題ではなく、世界的な課題である。

車椅子利用者が毎年増加している中、車椅子の利用者の中には正しい姿勢で座れない、つまり正しい車椅子シーティングができていないものもある。車椅子の不具合や利用する際に姿勢が悪いなど正しい車椅子シーティングができていないと廃用性症候群（関節拘縮、褥瘡（床ずれ）、皮膚萎縮（短縮）、括約筋障害（便秘・尿便失禁）、廃用性骨萎縮（骨粗鬆症）、起立性低血圧、自律神経不安定など）になるおそれもある。このような廃用性症候群の予防やケアができることは、車椅子利用者が日常生活をするうえで自立支援を促すために、必要な知識・技術であるが、現状はそれらを持ちあわせている介護者は多くない状況である。

シーティング技術は、発達障害児・者や障害者、高齢者が椅子・車椅子、又は座位保持装置を適切に活用し活動と参加への支援、発達の促進と二次障害の予防、介護者の負担を軽減することである。

本講座では、身体機能や構造を理解し、車椅子シーティング技術と福祉用具の関係、手動・電動車椅子の構造や機能とその特徴を理解することでメンテナンス（修理）技術を持ちあわせ、自立支援（ADL）ができる知識を有することで現在の社会背景に適合することを目指す。

●今日の授業

●キーポイント

□1 快適な座位のためのポイント概略

快適に座るためには、車椅子の身体への適合・車椅子クッション・座る時間がポイントとなる

□2 車椅子の身体への適合

車椅子を選定・調整することで、身体のサイズや形状に合せていく

□3 車椅子クッションの大切さ

座るためにクッションは必須 車椅子と車椅子クッションはワンセット

□4 車椅子クッションの求められる役割

褥瘡対策、姿勢保持、快適性。特に生活のための快適性はポイント

□5 車椅子クッションの素材の特徴

ウレタン、ゲル、エア各素材の特徴はクッション選びに必要な知識

□6 座位における時間の要素

長時間座り続けることはしんどいこと 身体を動かすことが大切

●参照資料

□1 P.37

□2 P.38

□3 P.39

□4 P.39

□5 P.40～41

□6 P.42

●授業コメント

快適に座るために、車椅子の身体への適合・車椅子クッション・時間の要素が重要となる。

車椅子クッションの選定を行い、車椅子のフットサポート・アームサポート・バックサポートの適合を行うことで、座っているユーザーが快適に座る環境をつくることができる。適合するためには、ユーザーが何のために、どのような姿勢を取るのかについて把握する必要がある。

車椅子クッションの役割りは、褥瘡対策・姿勢保持・快適性がある。褥瘡や姿勢の崩れのおそれなくとも、車椅子に座ることで起こる痛みや不快感を防ぐために、車椅子クッションは必ず必要となる。

車椅子クッションの素材は、ウレタン・ゲル・エアなどがあり、それぞれ特徴に違いがあるため、選ぶ際にはどの特徴がユーザーにとって必要かを考える。また、各素材の良いところを取り入れた混合タイプもある。

身体への適合を行ったとしても、長時間座り続けることはしんどいということを忘れてはいけない。快適な座位を考える際には、身体を動かすこと・無理なく座れる時間を検討することが大切。

●資格関連度



車椅子シーティング 基礎

快適な車椅子座位のためのポイント

○身体への適合

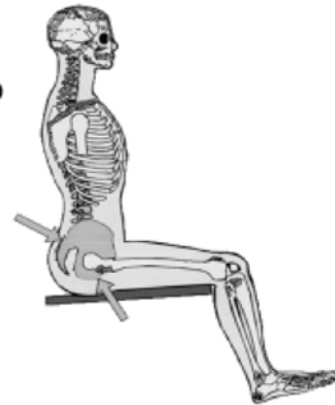
アームサポート・フットサポートなど車椅子各部の高さや角度や形状などを身体に適合させる

○車椅子クッション

快適性や圧分散・姿勢保持など必要な機能をアセスメントし選定する

○時間

じっと座り続けることのしんどさを考える



車椅子に快適に座るためには、利用者の身体に車椅子が適合していること、車椅子クッションが使用されていることはもちろんのこと、座り続けることのしんどさも考える必要があります。

車椅子シーティング 基礎

車椅子の身体への適合

身体のサイズに合わない車椅子の使用



姿勢の崩れ、不快感・痛み・二次障害の発生

身体への適合箇所

座面幅 座面奥行き 座面高さ 座面角度

アームサポート(肘掛け)高さ フットサポート(足台)高さ

バックサポート(背もたれ)高さ・形状

等々

車椅子が身体に適合していないと、姿勢の崩れや二次障害が発生する恐れがあります。車椅子の適合は、身体（お尻・背中・足・手など）を支える各場所のサイズと形状について、選定や調整などによって行っていきます。



車椅子シーティング 基礎

車椅子クッションの大切さ

クッション利用の目的

- ・臀部の褥瘡予防→圧分散、ずれ
- ・姿勢の保持→変形、拘縮
- ・快適性→生活

車椅子に座るときは、必ず専用クッションを使用！

車椅子クッションは車椅子に座るためにとても大切です。褥瘡対策や姿勢保持といった二次障害対策も車椅子クッションの重要な役割ですが、まずは生活のために必要な快適性を保つために、必ず車椅子には車椅子クッションを使用してください。また、車椅子に使うクッションは、車椅子での使用のためにつくられた車椅子専用のクッションを選定してください。

車椅子シーティング 基礎

車椅子クッションの主な素材

○ウレタンクッション

利点: 使用・加工が容易。低価格。

欠点: 長時間座位で硬さがでやすい。消耗が早い。

○ゲルクッション

利点: 身体の動きへの追随性。中程度の圧分散力。

欠点: 気温により効果を一様に得ることができない。

○エアクッション

利点: 圧分散が良い。

欠点: 調整・メンテナンスが必要。不安定。

車椅子クッションの素材で主なものは、ウレタン・ゲル・エアの3つです。素材ごとにそれぞれ特徴がありますが、この特徴を知っているとクッション選びに役立ちます。



車椅子シーティング 基礎

最近の車椅子クッション

○ハイブリッド型

ウレタン・ゲル・エアーなど素材を組み合わせ、それぞれの特徴を活かした様々な機能を持つ。

欠点は価格が高いこと。

(例)

- ・ウレタン+エアー: 座り心地の良さと安定感があり圧分散に優れる。
- ・ウレタン+ゲル: 身体への追随性と安定感に優れる。

これらの他にも繊維素材など様々な素材があります。

素材の持つ特徴を知ることは、車椅子クッション選定の大切な知識となります。

素材を組み合わせたハイブリッド型の車椅子クッションもあり、各素材の利点を組み合わせて作られているため、高い機能を持ちます。それぞれの素材の特徴を知っていると、実物を見ることが出来なくても、クッションの機能などがある程度想像することが出来るようになります。また、車椅子クッションを選ぶ際は、必要とする機能に優先順位をつけていくことが大切となります。

車椅子シーティング 基礎

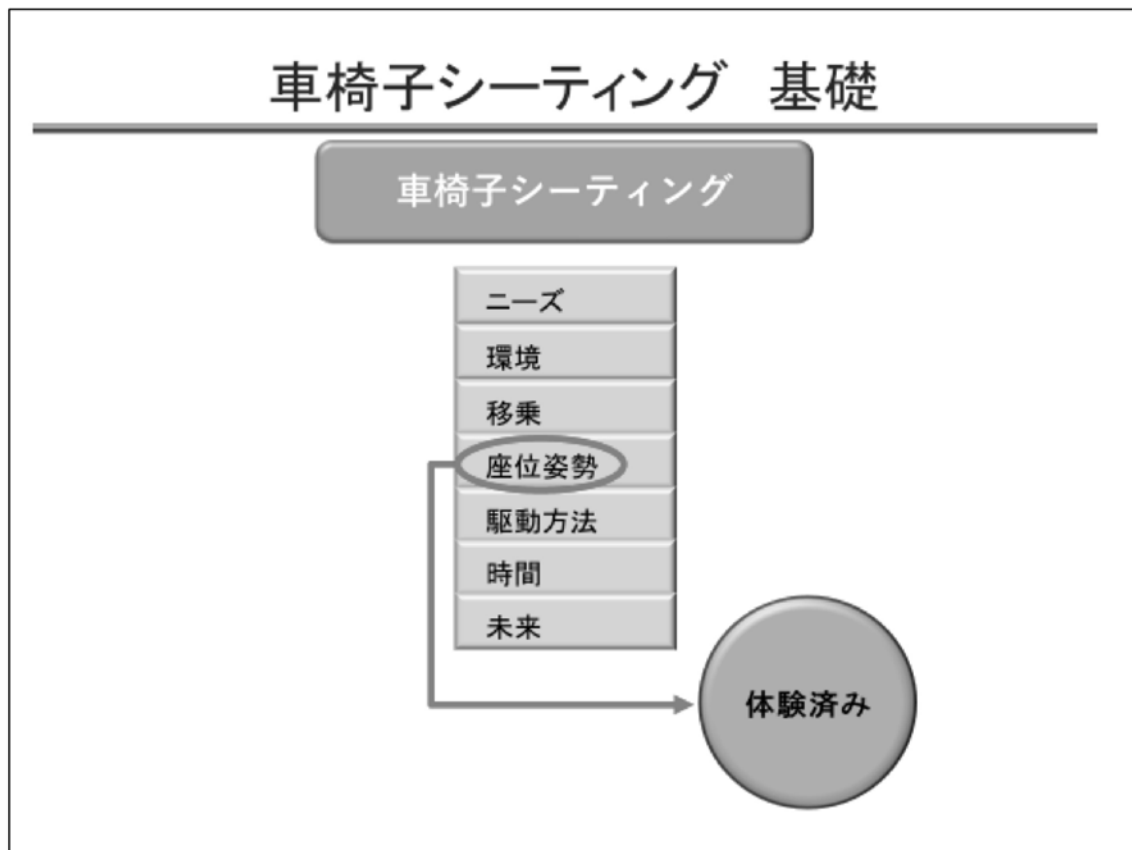
時間（身体を動かす大切さ）

【長い時間座っていることはしんどいこと】

長時間座り続ける、特にじっと座り続けることはとてもしんどいことです。

立ち上がることが出来なくても、車椅子上で身体を動かすお手伝いをするのが快適な座位には大切な要素となります。

車椅子の身体への適合がしっかり出来ていても、同じ姿勢で座り続けることはやはりしんどいことです。しんどさを和らげるためには、立ち上がることが出来なくても、足を伸ばす・腕をまわす・腰を伸ばすなど身体を動かすことが必要です。人によってしんどくなる時間は様々です。利用者ごとに、どれだけの時間なら快適に座ることが出来るのかを考えることもシーティングにおいては大切なこととなります。



車椅子シーティングでは、利用者のニーズなど様々なことからを組み合わせ、ゴール設定をする必要があります。このゴール設定は、利用者の生活に直結するものであり、生活を豊かにするものとなります。そのため、車椅子利用者にとって、車椅子シーティングはとても大きな役割を担います。

当講座では、座位姿勢について体験をしていただきましたが、その他の部分についても、考え体験をし、車椅子シーティングについて知識を深めていってください。

車椅子シーティング

Wheelchair seating [APPLICATIONS]

応用

講師名：

今回の授業：車椅子シーティング 応用

●シラバス

今後、世界の総人口における65歳以上の高齢者の割合は2060年までに17.6%になると見込まれている。これは、我が国だけの問題ではなく、世界的な課題である。

車椅子利用者が毎年増加している中、車椅子の利用者の中には正しい姿勢で座れない、つまり正しい車椅子シーティングができていない者もいる。車椅子の不具合や利用する際に姿勢が悪いなど正しい車椅子シーティングができていないと廃用性症候群（関節拘縮、褥瘡（床ずれ）、皮膚萎縮（短縮）、括約筋障害（便秘・尿便失禁）、廃用性骨萎縮（骨粗鬆症）、起立性低血圧、自律神経不安定など）になるおそれもある。このような廃用性症候群の予防やケアができることは、車椅子利用者が日常生活をするうえで自立支援を促すために、必要な知識・技術であるが、現状はそれらを持ちあわせている介護者は多くない状況である。

シーティング技術は、発達障害児・者や障害者、高齢者が椅子・車椅子、又は座位保持装置を適切に活用し活動と参加への支援、発達の促進と二次障害の予防、介護者の負担を軽減することである。

本講座では、身体機能や構造を理解し、車椅子シーティング技術と福祉用具の関係、手動・電動車椅子の構造や機能とその特徴を理解することでメンテナンス（修理）技術を持ちあわせ、自立支援（ADL）ができる知識を有することで現在の社会背景に適合することを目指す。

●今日の授業

●キーポイント

□1 車椅子シーティングの目的

車椅子ユーザーが快適な生活を送るために必要なもの

□2 車椅子のガイドラインについて

車椅子は、車椅子ユーザーの身体状況と生活環境に合わせる必要がある

□3 車椅子に求められる機能

座位、移乗、移動の3つの項目は必ず考える

□4 快適な座位のポイント

安定した座位を取ることで、長時間じっと座り続けられないことが重要

□5 福祉用具選定のポイント

ユーザーの身体状況だけでなく、住宅環境や介護の環境を時間的な要素とともに考える

●参照資料

□1 P.48

□2 P.51～55

□3 P.56

□4 P.57～58

□5 P.59

●授業コメント

障害への対応では、日常生活を送るうえで起こる不都合を解消することが重要。不都合を解消するためには、用具を使用することや、バリアフリー化が手段として考えられる。

標準型車椅子について、厚生労働省が出しているガイドラインには、安定した座位が取れること、乗り降り動作がしやすいこと、駆動しやすいこと、生活場面で使いやすいことが記載されている。最低限として、この内容にあった車椅子を提供していくことが重要。

座位は重要となり、特に快適に安定した状態で座ることが出来ないと、生活に支障が出たり二次障害が発生するリスクがある。快適な座位のためには、骨盤の安定・車椅子クッション・バックサポート・サイドサポート・アームサポート・フットレグサポートが重要な要件となる。また、安定した座位が取れたとしても、長時間同じ姿勢で座り続けることは苦痛となり、動きをもつことも必ず必要になる。

●資格関連度

令和3年度文部科学省委託事業「専修学校リカレント教育総合推進プロジェクト」
分野横断型リカレント教育プログラムの開発
介護における車椅子シーティングに関する技術習得のための
分野横断型リカレント教育プログラムの開発

車椅子シーティング&メンテナンス技術入門

車椅子シーティング 応用



車椅子シーティング 応用

□シーティングとは・・・

【日本シーティングコンサルタント協会】

シーティングとは、椅子・車椅子を利用して生活する人を対象に、座位に関する評価と対応(機器の選定、調整、マネジメントなどを含む)を行うことです。シーティングの目的は、対象者等と共有した目標を達成できる適切な座位姿勢を実現することにより、二次的障害の予防、活動と参加の促進、心身機能・構造の改善を促すことです。

車椅子シーティングの簡単なイメージは・・・

車椅子利用者が、車椅子に「座って」豊かな生活を送るためのお手伝い

シーティングとは、車椅子利用者が豊かな生活を送るためのお手伝いです。

車椅子シーティング 応用

福祉用具とは

心身機能が低下し日常生活を営むのに支障のある老人
又は心身障害者の日常生活上の便宜を図る為の用具
及びこれらの者の機能訓練のための用具並びに補装具

ADL・QOLの向上のため

また、車椅子を含めた福祉用具は、利用者のADLやQOL向上のために使います。車椅子は
どういうものなのか。



車椅子シーティング 応用

車椅子の定義 (厚生労働省ガイドライン)

自走用標準型車椅子は、要介護者等が自ら手でハンドリムを操作したり、足で床を蹴って移動したりする福祉用具である。車椅子での長時間にわたる活動を保障する為、座位の基盤となる座(シート)背もたれの機能に配慮し、上肢や体幹の運動を制限することなく骨盤を安定して支持できるものを選ぶ必要がある。また、乗り移りや車椅子での作業をしやすくする為に、ひじ当てやレッグサポートの形式や形状に注意を払うことも重要である。尚、手で操作する場合は操作しやすい位置にハンドリムがくるものを、足で床を蹴って移動する場合は蹴りやすいシート高のものを選ぶ必要がある。

適正な身体支持が得られる範囲なら、できるだけコンパクトなものの方が狭いところでの移動が行いやすくなる。持ち運びにはできるだけ軽量でコンパクトに収納できるものが便利である。

利用者の ADL・QOL 向上のために使用する車椅子には、厚生労働省が出しているガイドラインがあります。

車椅子シーティング 応用

ポイント①

車椅子での長時間にわたる活動を保障する為、座位の基盤となる座(シート)や背もたれの機能に配慮し、上肢や体幹の運動を制限することなく骨盤を安定して支持できるものを選ぶ必要がある。

(ガイドラインより)

安定した座位が取れること

【使う人の身体にあった車椅子】

- ・座幅の選択
- ・クッションの選定
- ・座面角度の調整
- ・アームサポート、フットサポート、バックサポートの調整

はじめに、^{くろまゐ}車^{すじょう}椅子^{ざい}上での座位について、^{あんてい}安定した座位^{ざい}が取れることが書かれています。



車椅子シーティング 応用

ポイント②

乗り移りや車椅子での作業をしやすくする為に、ひじ当てや
レッグサポートの形式や形状に注意を払うことも重要
(ガイドラインより)

乗り移り動作(移乗)がしやすいこと

アームサポート、フットサポートが簡単に取り外せる。
→ 移乗動作の邪魔になるものをなくす。

より安全に！より簡単に！

次に、乗り移り動作（移乗動作）について書かれています。アームサポートやフットレッグサポートの取り外しや跳ね上げがポイントになります。

車椅子シーティング 応用

ポイント③

手で操作する場合は操作しやすい位置にハンドリムがくるものを、
足で床を蹴って移動する場合は蹴りやすいシート高のものを選ぶ
必要がある。

(ガイドラインより)

移動(駆動)しやすいセッティングであること

【車椅子駆動のポイント】

- ・背もたれの高さ
- ・車輪の位置
- ・シートの高さ、足回り環境
- ・フレームの剛性の良さ
- ・座面の角度

続いて、車椅子の移動(駆動)については、操作をしやすいようにセッティングすることという記載となります。足駆動の場合は座面の高さ、手駆動の場合はハンドリムの位置が重要です。



車椅子シーティング 応用

ポイント④

適正な身体支持が得られる範囲なら、できるだけコンパクトなものの方が狭いところでの移動が行いやすくなる。持ち運びにはできるだけ軽量でコンパクトに収納できるものが便利である。

(ガイドラインより)

生活場面への適合を目指すこと

- ・車椅子の全幅や全長
- ・持ち運び時の機能
- ・安全面や耐久性
- ・介助者側の使いやすさ

・・・etc

最後に、持ち運びや収納など使いやすさについて書かれていますが、「適正な身体指示が得られる範囲なら」という部分に注意してください。

車椅子シーティング 応用

車椅子に求められる機能

・座位

座位での姿勢・座り心地・安定感

・移乗

車椅子への乗り降り

・移動

こぎやすさ・押しやすさ

これらから、シーティングとして車椅子に求められる機能は、座位・移乗・移動の3つが大きな役割となります。



車椅子シーティング 応用

快適な座位のためのポイント

車椅子シーティング 応用

快適な座位のためのポイント

【骨盤の安定】

骨盤は座位のベースになる部分

骨盤を安定させるためには、車椅子座面が重要

車椅子座面幅や奥行きも



【シートクッション】

車椅子に座るときは、必ず専用クッションを使用！

快適性、褥瘡対策、姿勢保持など



車椅子シーティング 応用

快適な座位のためのポイント

【身体に合わせた形状】

身体のかたちに合わせてバックサポート
身体に合わないとは姿勢の崩れの原因に
適正なサポートは身体を支えて疲れを防ぐ



車椅子シーティング 応用

快適な座位のためのポイント

【腕と脚へのサポート】

座ったときの姿勢を安定させる
姿勢の崩れや疲れを防ぐ
不適合は姿勢の崩れを引き起こす





車椅子シーティング 応用

快適な座位のためのポイント

【時間】

長い時間ずっと座り続けることはしんどいこと
 利用者に合った座位時間を考える
 少しでも身体を動かすことで快適な座位環境を

どれだけ身体に合った車椅子でも「時間」は忘れずに

車椅子シーティング 応用

福祉用具選定のポイント

- ・身体状況との適合
- ・残存機能を活かせる
- ・本人や介助者が使いやすい
- ・使用する環境との適合
- ・他の機器との適合
- ・使用する期間
- ・制度やサービス
- ・生活環境との適合

車椅子シーティングは1つの要素

* 利用者の生活を豊かにするために *

講師名：

車椅子シーティング 応用

氏名：

問題1 福祉用具は、ADL・QOL向上のために使用するものだ。

解答1

問題2 車椅子は、安定した座位が取れないといけない。

解答2

問題3 車椅子は、座位環境を整えば、移乗については考えなくて良い。

解答3

問題4 車椅子を足でこぐ場合は、座面の高さが重要だ。

解答4

問題5 快適な座位のために、骨盤の安定は必要だ。

解答5

問題6 骨盤が安定していれば、シートクッションは必要ない。

解答6

問題7 バックサポートはもたれることが出来れば、形状に工夫は必要ない。

解答7

問題8 姿勢の安定には、側方からのサポートも必要だ。

解答8

問題9 フットサポート・アームサポートの設定は、座位姿勢に影響を与える。

解答9

問題10 身体に合った車椅子であれば、ずっと長時間座っていても問題ない。

解答10

講師名：

車椅子シーティング 応用

氏名：

解答1 ○

解説1 福祉用具は、利用者のADL・QOLを向上させるために使用する。

解答2 ○

解説2 車椅子上での生活のために、安定した座位は必要。

解答3 ×

解説3 車椅子利用のために、移乗は考えなければいけない。

解答4 ○

解説4 車椅子を足でこぐ場合は、足が床に着くように座面の高さを設定することが必要。

解答5 ○

解説5 骨盤の安定は座位の基本となり重要。

解答6 ×

解説6 シートクッションは必ず必要。

解答7 ×

解説7 バックサポートは身体に沿ったもので、適正なサポートを得ることが出来る工夫が必要。

解答8 ○

解説8 側方からのサポートは、姿勢の安定にとって必要。

解答9 ○

解説9 アームサポート、フットサポートの身体への適合は座位姿勢に大きな影響を与える。

解答10 ×

解説10 車椅子が身体に適合されていても、身体を動かずに長時間座ることはできない。

講師名：

今回の授業：車椅子シーティング 応用

●シラバス

今後、世界の総人口における65歳以上の高齢者の割合は2060年までに17.6%になると見込まれている。これは、我が国だけの問題ではなく、世界的な課題である。

車椅子利用者が毎年増加している中、車椅子の利用者の中には正しい姿勢で座れない、つまり正しい車椅子シーティングができていない者もいる。車椅子の不具合や利用する際に姿勢が悪いなど正しい車椅子シーティングができていないと廃用性症候群（関節拘縮、褥瘡（床ずれ）、皮膚萎縮（短縮）、括約筋障害（便秘・尿便失禁）、廃用性骨萎縮（骨粗鬆症）、起立性低血圧、自律神経不安定など）になるおそれもある。このような廃用性症候群の予防やケアができることは、車椅子利用者が日常生活をするうえで自立支援を促すために、必要な知識・技術であるが、現状はそれらを持ちあわせている介護者は多くない状況である。

シーティング技術は、発達障害児・者や障害者、高齢者が椅子・車椅子、又は座位保持装置を適切に活用し活動と参加への支援、発達の促進と二次障害の予防、介護者の負担を軽減することである。

本講座では、身体機能や構造を理解し、車椅子シーティング技術と福祉用具の関係、手動・電動車椅子の構造や機能とその特徴を理解することでメンテナンス（修理）技術を持ちあわせ、自立支援（ADL）ができる知識を有することで現在の社会背景に適合することを目指す。

●今日の授業

●キーポイント

- 1 車椅子を使用しフットサポート適合実技
- 2 車椅子を使用しアームサポート適合実技
- 3 車椅子を使用しバックサポート適合実技
- 4 適合した状態をアセスメント

- 高さだけではなく、前後位置の重要性を知る
- 適合のためには、基準となる姿勢を決めることが必要
- 身体の形状を取るだけでなく、サポートすることが重要
- 車椅子ユーザーを観察し、適合前後の違いを確認

●参照資料

- 1
- 2
- 3
- 4

●授業コメント

じっさい じぶんじしん からだ たいけん てきこう くるまいす とそうでないものでどれくらい違いがあるのかを知る。また、適合していく過程で起こる、快適性や姿勢の変化を体験または観察する。

フットサポートは高さが変わると、座位の安定が変わったり、臀部の痛みが減ったりの変化がみられる。アームサポートは、上半身の姿勢に大きな影響があり、身体が前に曲がったり、背筋を伸ばすことが出来たりと変化も大きい。

一般的な車椅子のバックサポートは1枚シートのもが多いが、これでは身体の形状に合わせることが出来ず、快適で安定した座位は提供しにくい。そのため、タオルやクッションを使うような工夫が必要となる。車椅子の機能として、背張り調整という機能があり、この機能がついた車椅子の場合、この機能を使うことで身体の形状に合わせるサポートをすることが出来るため、適合がしやすい。

適合調整を行う際には、常にユーザーに疲れなどがないか配慮しながら行うことが重要。

また、ユーザーの姿勢の変化をアセスメントし、適合の結果をみていく。

●資格関連度

車椅子の実機を使った体験実習により、
テキスト無し。
グループ代表による発表内容で講座の
理解度を評価する。

本教材「車椅子シーティング&メンテナンス技術入門 車椅子シーティング 基礎・応用」は、文部科学省の教育政策推進事業委託費による委託事業として、《学校法人摺河学園 姫路ハーベスト医療福祉専門学校》が実施した令和3年度「専修学校リカレント教育総合推進プロジェクト」の成果をとりまとめたものです。

著者：ラックヘルスケア株式会社

令和3年度「専修学校リカレント教育総合推進プロジェクト」
分野横断型リカレント教育プログラムの開発

介護における車椅子シーティングに関する技術習得のための分野横断型リカレント教育プログラムの開発事業 車椅子シーティング&メンテナンス技術入門 車椅子シーティング 基礎・応用

令和4年2月発行

発行所・連絡先

学校法人摺河学園 姫路ハーベスト医療福祉専門学校
〒670-0962 兵庫県姫路市南駅前町 91-6
TEL 079-286-5801 FAX 079-224-1779
<http://www.harvest-school.com>

本書の内容を無断で転記、転載することを禁じます。



学校法人 摺河学園

姫路ハーベスト医療福祉専門学校